

【磯部中学校区】磯部中学校

▼相双地区▼

「つなぐ教育」で広がる学びの場

相馬市立磯部中学校 校長 早川 良一

「未来へつなぐ磯部っ子」と題して、児童生徒の学習習慣、生活習慣の確立と学力の向上を図り、子どもたちと磯部地区の未来につなぐための事業を推進してきました。地区の区長や公民館長、両校PTAや評議員の皆様方にもご意見をいただき、学校と家庭、地域が一体となった取組を進めました。

小中共通に作成した「学習の手引」や「生活の手引」は、系統的な指導につながりました。また、小中交流授業やテレビ会議システムを活用した発表会、合同学習会等では、子どもたちの間に学びをつなぐ姿がみられました。その他にも運動会や避難訓練、炊き出し訓練等を地域と合同で開催したことで、地域とのつながりがさらに深まってきました。

これらの取組で「磯部っ子」たちは、協力して自分たちで課題を見つけながら生き生きと活動しました。今後も磯部地区全体で子どもたちの学びの場を広げ、「生きる力」を育てていきたいと思ひます。



【広野中学校区】広野小学校

「乗り入れ授業」で学校と学校をつなぐ

広野町立広野小学校 校長 鈴木 宣雄

今年度は、中学校の先生による乗り入れ授業を算数、理科、音楽、体育、外国語活動で、のべ13時間実施しました。最初は表情の硬かった児童も、中学校の先生方のユーモアあふれ、しかもより専門的な指導を受けることで、次第に緊張がほぐれ、授業に集中していく様子が見られました。乗り入れ授業や研究授業等、様々な小中連携の取組を行うことで、次のような成果及び児童の変容がみられました。

- ・校種をこえて研究を深め合うことで、小中連携がより深まった。
- ・系統性を踏まえた単元計画の作成に取り組むことで、先生方の意識の高まりがみられた。
- ・中学校の先生方に自分から話しかけたり、挨拶したりする児童の姿がみられるようになった。特に6年生にとっては、中1ギャップの解消にもつながると感じられた。

次年度は今年度の成果を分析・評価し、さらに取組の改善を図っていききたいと思ひます。



【小名浜第一中学校区】小名浜第一中学校

保護者とともに学習習慣の確立に向けて

いわき市立小名浜第一中学校 校長 鶴沼 淳

- 学校と学校をつなぐ
「生活のきまり」や「家庭学習プログラム」をもとに、小中が連携した指導を推進しました。
- 学校と家庭をつなぐ
外部講師を招聘し、保護者向けの「家庭教育講演会」を実施し、子どもの学習意欲を育む親のかかわり方について、考えを深めていただく機会を設けました。
- 学校と地域をつなぐ
地元消防団と連携した避難訓練や公民館祭り、サンシャインマラソンの応援などに取り組みしました。このような取組により、次のような成果や児童生徒の変容がありました。



- ・小中相互に9年間で子どもを育てる意識とともに、児童生徒にも小中がつながっているという意識が高まりました。
- ・保護者への啓発により、家庭学習や生活習慣が学力向上に影響することが周知されました。保護者の感想からも、外部講師による講演会は好評でした。
- ・地域との連携の中で、児童生徒にも地域の一員としての意識が高まりました。

【江名中学校区】江名小学校

「つなぐ教育」 ～～学校同士の連携強化から～～

いわき市立江名小学校 校長 武藤 忠晴

いわき市江名地区は太平洋に面し、かつては漁業の盛んな地区でした。地区内には江名小学校、永崎小学校、江名中学校の3校があります。今年度「つなぐ教育」の指定を受け研究実践してまいりました。以下に【学校同士をつなぐ】主な取組について紹介します。

- ・「地域連携推進委員会」(校長部会、教頭・教務部会、PTA役員部会、他)を設け、各部会毎に協議を重ねてきました。その中で義務教育9年間で取り組むべき事柄が明らかになり、3校全職員で共通理解し、共通実践できました。その結果、NRT学力検査や高校入試でよい成果が表れています。
- ・中学校教員に小学校で出前授業(英語、音楽、体育等)をしていただきました。児童からは「楽しく勉強できた」「とてもよく分かった」「早く中学校で授業を受けたい」等の感想が聞かれました。また、中学校長に高学年児童を対象に将来の夢を叶えるための進路や勉強のしかたについて出前授業をしていただきました。児童からは「〇〇高校に入学するため今から勉強を頑張る」との感想が聞かれたり、保護者からは「中学校3年間はとても短いからしっかり勉強しなさい」と子どもに助言していただくなどの成果がありました。



(執筆者の所属・職は平成27年度)

ふくしまから はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業<平成28年度推進校>

【東北地区】(伊達市)月館中、月館小、小手小 (桑折町)醸芳中、醸芳小、睦合小、半田醸芳小、伊達崎小 (本宮市)白沢中、糠沢小、和田小、白岩小

【県中地区】(田村市)船引南中、芦沢小、船引南小 (石川町)石川中、石川小、沢田小、野木沢小

【県南地区】(中島村)中島中、滑津小、吉子川小 (鮫川村)鮫川中、鮫川小、青生野小

【会津地区】(会津若松市)河東中、河東学園小 (金山町)金山中、金山小、横田小

【南会津地区】(下郷町)下郷中、旭田小、江川小、楢原小

【相双地区】(相馬市)磯部中、磯部小 (広野町)広野中、広野小

【いわき地区】(いわき市)植田中、植田小、菊田小、植田東中、汐見が丘小 (以上43校)

* 中学校が各推進地域の拠点校となっています。

平成28年7月



ふくしまの復興・再生を共に担う子どもたちのために 「つなぐ教育」で確かな学力を ～家族・教職員・社会人が一体となって～



ふくしまから

学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

はじめよう。

平成27年度、県内14推進地域の小・中学校47校がそれぞれ各中学校区内で連携し、子どもたちの夢の実現や本県の未来を担う人材の育成へとつなぐ取組を推進してきました。本年度も、県内14推進地域で以下のような取組を推進していきます。

学校同士の連携を強化するために

- 地域の課題に沿った「学びのプラン」の作成
- 地域の実態に応じた児童生徒向けの「学びの手引き」の作成
- テレビ会議システム(※)を活用した交流授業の実施
- 連携地域の児童と生徒が参加する学習会等の開催

学校と家庭の連携を強化するために

- 学習習慣、生活習慣の確立に向けた地域全体での取組
- 各校PTA合同で、学力向上のための学習・生活習慣の育成に向けた家庭の役割についての協議

学校と地域の連携を強化するために

- 地域の有識者や民間業者代表等からの連携地域講演会の開催



テレビ会議システムの活用

※ テレビ会議システムとは、インターネット接続回線を利用して会話することを可能にした対話型の通信システムのことです。



つながる学びのたいせつさ

福島大学 理事・副学長・地域創造支援センター長 小沢 喜仁

ふくしまは多様な自然に恵まれ、これがもたらす美しい景観と豊かな地の恵みを私たちは享受しています。5年前に発災した東日本大震災及び原子力発電所事故による影響は、少子高齢化、中山間地過疎、第一次産業の厳しい状況、地域経済の低迷という地域課題の上に生じており、複合・複雑化しています。復興を成し遂げ、ふくしまの豊かさを持続的に維持するために、地域人材の定着・育成を積極的に進める必要があります。

「つなぐ教育」推進事業は、地域の未来を担う子どもたちを、保護者、教師、地域の人々や所在する企業の人々などが、つながり、協働して育てるものです。単なる「知識の記憶」ではなく、体験等を通じて友だちと連携し、課題解決のために話し合い、工夫をして、知識を知恵へと進化させる経験をもとに自分の夢の実現に向けてがんばる基礎を築いてほしいと考えています。子どもたちの未来のため、地域の豊かさを創り出すために、今こそ協働しましょう!

<平成27年度推進校の取組の成果のまとめ>

平成27年度は、拠点校(中学校)14校、推進協力校(小学校)33校、計47校を事業推進指定校とし、各推進地域の実態を踏まえた特色ある取組を推進してきました。平成27年度の取組により、次のような成果がみられました。

- 児童生徒の積極的な授業への参加、学習意欲の向上
- 児童生徒の家庭学習への取組の改善・習慣化
- ノーメディアデー等の取組による生活習慣の改善・向上
- 小・中学校の交流授業等による教員の授業の工夫・改善等に向けた意識の向上
- 小・中学生の交流等による「中1ギャップ」解消への期待
- 「小中9年間で子どもを育てる」「地域で育てる」という教員、保護者、地域の意識の高まり
- 児童の中学校での学習・生活への期待の高まり
- ※ 各推進地域の詳しい取組と成果については、県教育委員会のホームページに掲載しております。

お知らせ 各種事業の開催日決定!～集え!無限の可能性を秘めた子どもたち～

各種事業の開催日は次の通りです。多くの参加をお待ちしております。

- 科学の甲子園ジュニア福島県大会 8月9日(火)(福島大学)
- 医療体験セミナー 8月11日(木)(ビックパレットふくしま)
- 福島県算数・数学ジュニアオリンピック 10月23日(日)
(県内7会場:福島大学、郡山女子大学、白河合同庁舎、会津大学、
御蔵入交流館、鹿島農村環境改善センター、いわき光洋高等学校)
- ※ 詳細は各学校を通じてお知らせします。



合同表彰式
(平成28年1月5日 福島県文化センター)

福島県教育庁義務教育課

ふくしまから はじめよう。 学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の取組と成果

【矢吹中学校区】矢吹中学校

2年間の「つなぐ教育」の実践を通して

矢吹町立矢吹中学校 教諭 大高 文雄

家庭での学習習慣、望ましい生活習慣の確立を目指し、町ぐるみで「つなぐ教育」を実践しました。中でも、特に次の2つの取組が効果的でした。

- 1 家庭と学校をつなぐ取組としてノーメディアデーを水曜日に統一し、小中5校が家庭学習の習慣化に向けて共通実践に取り組みました。
- 2 小学校と中学校をつなぐ交流授業の取組として、「矢吹型授業スタンダードの実践」「中学校数学科教員による小学校への授業協力」を行いました。これらの取組により、次のような児童生徒の変容がみられました。
 - ・メディアとの関わり方を見直し、メディアに触れる時間が減少傾向になりました。
 - ・算数科において、児童の学習意欲が向上し、積極的な授業への参加、家庭学習への取組がみられるようになりました。



【坂下中学校区】坂下南小学校

「育ち」と「学び」をつなぐ教育

会津坂下町立坂下南小学校 校長 渡部 隆一

会津坂下町では、幼稚園、小・中学校の統廃合を経て、現在「一つの学園構想」のもと、町内の幼稚園、小・中学校が相互に連携しながら、「一貫性」「共通性」「継続性」のある11(12)年間を見通した「育ち」と「学び」をつなぐ教育に取り組んでいます。全ての幼稚園、小・中学校で、3つの柱「基礎学力の定着・向上」「望ましい生活習慣づくり」「健康でたくましい心と体づくり」を意識した取組を実践する中で、教員の指導力の向上が図られ、子どもたちのよい変容がみられてきています。次は、その一部です。

- 全ての幼稚園、小・中学校で、学習や生活の基盤となる「話をよく聴ける子ども(聴き上手日本一を目指して)」の指導を進めてきた結果、学習に集中し話を上手に聴ける子どもが増えてきている。
- 中学校英語教員による、小学校6年生への外国語活動の出前授業を実施したことにより、児童の中学校の学習に対する不安が取り除かれ、入学への期待が高まった。



【下郷中学校区】旭田小学校

「つなぐ教育」で広がる理科教育の可能性

下郷町立旭田小学校 教諭 鈴木 祥晃

下郷町では、町内児童生徒の学力向上を目的とする四つ葉のクローバープランをもとに、「つなぐ教育」に取り組んできました。その中の、小中連携の一環としての、中学校の理科の先生とのチーム・ティーチング指導(TT指導)による主な成果は次のとおりです。

- 中学校の先生が自作のガラス管を使用するなど、教具や授業の導入を工夫したことにより、子どもたちが実験の見通しや実験の目的をより明確にすることができた。
- 実験班を少人数で設定できたことにより、子どもたち一人一人がよりアクティブに実験に臨んだり、話し合い活動に取り組んだりすることができた。
- 子どもたちが、2人の指導者からタイミングよく指示や質問を受けたことにより、科学的な見方を広げたり、深めたりすることができた。

総じて、子どもたちが理科の魅力をこれまで以上に味わえたという点において、「つなぐ教育」で広がる理科教育の可能性を感じました。今後は、「つなぐ教育」の充実で、さらに指導者の専門性を向上させ、より魅力ある授業を展開していきたいと思えます。



【釀芳中学校区】睦合小学校

確かな学力を育てる授業づくりのために

桑折町立睦合小学校 校長 五十嵐 正彦

- 釀芳中学校区の5つの小・中学校では、主に次のような取組を行いました。
- ・事前研究会の段階から拠点校と全協力校の先生方が参加して、事後研究会まで一緒に深め合う「授業研究会」の実施
 - ・学び合い等「授業における共通の視点」を基にした授業づくり
 - ・ICT(電子黒板等)を活用した授業の工夫
 - ・全校内授業研究会で外部講師(指導主事等)による指導助言
 - ・町内小学校共通の学習の約束「学びのスタンダード」作成
- これらの取組により、次のような児童の変容がみられました。
- ・「勉強がよく分かる」と答えた児童……98%(前年度+5%)
 - ・「知りたい・やってみたいと思う授業だ」と答えた児童……98%(前年度+12%)



【長沼中学校区】長沼中学校

小中連携の取組の成果

須賀川市立長沼中学校 校長 遠藤 彰

学校同士の連携を強化するために

- 学習内容や家庭学習のポイントを提示した小中共通の「学習の手引き」の作成
- 長沼地域の子どものための「学習と生活」の長所・短所の把握と課題改善の取組
- 長沼地域の子どものための学力向上を図る交流授業の実施
- 学習時間や家族交流の時間を確保できる「ノーメディアデー」の実施

学校と家庭・地域の連携を強化するために

- 地域とのつながりを深める地域行事参加への推進
- 小学校、中学校9年間の系統表の作成及び充実したキャリア教育の取組

- これらの取組により、次のような子どもたちの変容がみられました。
- 小中共通の「学習の手引き」の作成や交流授業で小学校の授業に中学校教師が参加したことで、専門性が高まり学習意欲が高まった。
 - 家庭や地域の学校教育への理解や協力をいただく雰囲気が高まった。特に、ノーメディアデーの一斉の取組では、実施後の保護者アンケートで肯定的な回答をいただいた。
 - 中学校行事の見学、小中連携の取組によって中学校入学後の不安が解消され、安心感や期待感を高めることができた。



【浅川中学校区】浅川小学校

“学校と学校” “学校と家庭・地域”をつなぐ

浅川町立浅川小学校 教諭 松井 誓子

浅川町では、学校・地域が連携しながら教育活動を進めてきました。今年度は、それをさらに深め“学校と学校” “学校と家庭・地域”をつなぐをキーワードに取り組みました。

児童生徒の実態を踏まえ、学校と家庭・地域が協力して子どもを育てるために、「学習の手引き」や幼小中連携プランの「あさまるプラン」を作成しました。また、中学校入学後の生活をスムーズに送ることができるよう、児童の「小学校交流会」を実施しました。さらに、算数科・数学科の学力向上に焦点をあて、小・中学校の教員が連携協力し指導案の検討を行い、研究授業を実施しました。

これらの学校の枠を越えた取組により、家庭での生活の目標や授業の重点などを共有することができました。児童生徒の発達段階を踏まえ、どの学校でもどの家庭でも一貫した教育活動を実践していくことが、児童生徒のよりよい学習習慣、生活習慣の確立と学力の向上につながると実感しました。

